

犠牲者の御霊に

哀悼の意をささぐ



復興を信じ、

共に歩みを進めて

式辞(抜粋) 益城町長 西村博則

これまでに誰もが経験したことのない、2度の震度7の大地震から5年を迎えようとしています。ご遺族の皆さま、今なお絶えることのない深い悲しみに想いを馳せるとき、哀惜の念に堪えません。被災されたすべての方々に、心からお見舞いを申し上げます。

あの日、家々は無残に崩れ、がれきが道路をふさぎ、多くの人が着の身着のままです。そのような困難な状況に、私達は復興を信じ、一丸となって歩みを進めて参りました。

昨年、すべての災害公営住宅が完成し、被災された皆さまの入居も終え、新たな生活を開始されておられます。公共施設においても、最大の避難所となった総合体育館が昨年7月に利用再開し、プレハブ校舎が学び舎となつていた益城中も完成し、再び生徒達の明るい声が響き渡ることと思います。

県道熊本高森線4車線化工事、益城中央被災市街地復興土地区画整理事業においても、住民の皆さまのご協力により、着実に事業が進んでおります。しかし、復旧、復興事業の関係で住まいを再建できず、仮設住宅などでの生活を余儀なくされている方々もおられます。引き続き最後のお一人まで、しっかりと寄り添ってまいります。

5年の節目を迎えるにあたり、これまでの町民の皆さまのご努力とご協力に、また、地震発生より今日まで、全国の皆さまからいただいた多くのご支援に対し、あらためて心から感謝を申し上げます。

昨今、地震や台風といった相次ぐ自然災害、新型コロナウイルス感染症のまん延など、これから先も、新たな困難に直面することがあるかもしれせん。しかし、熊本地震を経験し、力強く歩みを進めてきた私たちがあれば、どのような困難も乗り越えることができるかと確信しております。熊本地震からの完全復興を目指し、町民の皆さま

が元の「何でもない毎日」を取り戻せるよう、全力で復旧、復興にまい進することを、ここにお誓い申し上げます。

結びに、御霊の永遠に安らかならんことをあらためてお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆さまのご平安を心からご祈念申し上げます。



追悼の言葉(抜粋)

ご遺族代表 長石美輪さん

あれから5年の月日が経とうとしています。震度7の地震に2度も襲われた私の故郷、益城町。熊本地震で多くの命が失われました。そして、私は大好きだった祖父、祖母を失いました。

祖父は温厚でまじめな性格、祖母は社交的でおいしい料理をいつもふるまってくれました。2人はいつも共に行動し、とても仲睦まじい夫婦でした。今、日本各地では、毎年のように人間の予想をはるかに超える自然災害が起きています。あの時の私たちの経験と教訓を無駄にせず、熊本地震を知らない世代に、また、県内外の方々にお伝えし、災害に対する備えに取り組むことが大切だと思います。

最後に、震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、全国各地からご支援いただきました皆さま、ご自身も被災されたにもかかわらず、支えていただいた地域の方々へ深く感謝し、追悼の言葉といたします。

